

(第三種郵便物認可)

総 合

AAP18秋冬展

アジア生産の”安心”訴求

25社が参加・協力

アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)は27日～3月2日、東京都渋谷区のオーダイ・オブ・メリット・フラインニング(OMP)で「AAP18秋冬展示会」を開く。3回目となる今回は商談と情報交換を目的に、25社が参加・協力。製品60点のほか、生地、

副資材なども紹介する。AAPは設立7周年を迎え、会員数は56社、年間数千万着を縫製する。縫製地が中国から東南アジアに移行する動きに合わせて、情報交換とアパレル業界への発信を目的に組織化された。会員は「メード・バイ・ジャパン」をテーマに、

バングラデシュ、ミャンマー、ラオス、カンボジア、ベトナム、インドネシアで生産。今回の展示でも、出展参加11社が感度、品質、技術をベースにした「安心」のモノ作りをアピールする。

展示された衣料品にはQRコードが付けられ、工場名や素材が分かる。今回の25社を紹介したブックブックも製作(日英2カ国語)し、会場で配布予定。「会員は競合関係にあるが、協業も必要。顧客を含めパートナー関係を築いていきたい(事務局)」と言う。外部との接点を広げるため、OMPは今秋にキュレーションサイト(情報をまとめたサイト)を開設し、AAP情報を発信する。

出展参加企業は小島衣料、サンウェル、サンテイ、第一織物、高間、東海サーモ、プリセット五島、養島刺繍、湯峰ソーイング、レナシミアキ、ロックス。出展協力企業の室谷、吉岡のほか、12社が応援スポンサー企業として支援する。